夜会行

第五稿
08/03/24

高木登

登場人物

新田みどり

近藤笑里

秋元遼子

廣川愛

永井理子

あるマンションの一室。

そこは中央線沿線の住宅街にある、新田みどりと近藤笑里の住む部屋である。２ＬＤＫで、荷物は多くない。簡素で清潔な印象があり、生活感はあまり感じられない。

舞台の中心はリビングで、中央に脚の低いテーブルがあり、周りにはクッションがいくつか置かれている。テーブルの上には手指消毒薬のボトルが一本置かれている。

上手奥にキッチンと冷蔵庫。
下手奥が玄関につながる廊下で、廊下の途中にはユニットバスがあり、そこに洗面所があるが、舞台上からは見えない。

舞台正面には、通りに向かった広い窓がある。

笑里の誕生日。夕方から夜にかけて。

照明が点く。

近藤笑里が、窓に向かって立っている。

外を見ている様子だが、後ろ姿なのでなにを思っているのかはわからない。

キッチンでは宴席の準備がおこなわれている途中らしい。

そこへ入ってくる新田みどり。不織布マスクをしている。

みどり　……なに？

笑里　……なんでもない。

食事の準備のつづきをはじめるみどり。

笑里　（手指を消毒しながら）やるよ。

みどり　いいよ。

笑里　やるから。

みどり　いいって。あなたの誕生日なんだから。なんにもしないで座ってればいいから。

笑里　なんかしてないと落ち着かないから。

みどり　こっちが落ち着かないっての。

笑里　みんななんで来るんだろうね。わたしなんかの誕生日に。

みどり　そういうこと言わない。

笑里　でも本気でわからないんだよね、なんてみんな友だちでいてくれるのか。ねえ、わたしの何が良いの？

みどり　やめてくれる？　三年いっしょにいる相手に言うことじゃないよ。

黙る笑里。

準備をつづけるみどり。

チャイムが鳴る。

玄関に向かうみどり。

人が訪ねてくる気配がして、やがてみどりと遼子が入ってくる。

遼子、不織布のマスクを着け、ケーキの入っていそうな紙袋を手にさげていて、

遼子　（笑里の様子を見て）やるよ。

笑里　いいよ、

遼子　おかしいでしょ。主賓でしょ。

笑里　でも自分ちだし。

遼子　（荷物を置いて、洗面所を示して、みどりに）良い？

みどり　どうぞ。

洗面所に手洗いに行く遼子。

遼子　（手を洗いながら、声だけ）座っててよ。
笑里　いいよ。まだ途中だし。
遼子　（戻ってきて、手指消毒液で消毒しながら）こういうのってさ、立ってるとずっと働きつづけることになるんだわ。
みどり　なるなる、
遼子　なるよね、
笑里　べつにいいじゃん、それでも。
遼子　座ってて。
みどり　（座るように促す仕草）
笑里　……。

雑に腰を下ろす笑里。

遼子　（ケーキの箱を示して）買ってきた。
みどり　ありがとう、たすかる。
遼子　分ければ良いんだよね。ゴム手袋ある？
みどり　いいよ、遼子も座っててよ。
遼子　手伝うよ。
みどり　担当わたしなんで。座ってて。
遼子　わかった。（と近くに座る）
みどり　（作業しながら）廣川、彼女連れてくるってよ。
遼子　ああなんか聞いた。理想の彼女だって。
笑里　なにそれ、
みどり　通じ合えるんだって、
笑里　なにが通じ合うの？
みどり　心？
笑里　（苦笑）
みどり　いてほしいと思うと急に姿を現したり、してほしいと思

うと口に出さなくてもしてくれたりするんだって。
笑里　それヤバくない？
遼子　理想なの、それ？
みどり　らしいよ。廣川は運命の人だって。
笑里　ヤバいでしょ、
遼子　霊感とかあるのかな、
みどり　さあ……。
遼子　騙されてるんじゃない？　なんかスピリチュアル系の……
みどり　そういうんじゃないんだって。残業で疲れ果てて家帰ってきて、顔が見たいなあって思ってたら、部屋の前に立ってたりとか、
笑里　怖いんだけど。
みどり　会社帰りにお店入ったら、たまたま先にいたりするんだって。
笑里　ありえない、
みどり　そういう偶然がさ、グッとくるときもあるらしいのよ、
笑里　ないない、
遼子　廣川ならありそう、
みどり　前の人がつらい恋愛だったからね、
遼子　……ああ。
みどり　報われてほしいよね、
笑里　こないだ見かけたよ、前の人、下北で。
みどり　え。
遼子　どんなだった？
笑里　男のひとと歩いてた。
みどり　そうなんだ。
遼子　……。
笑里　なんかたのしそうだった。

チャイムが鳴る。

玄関に向かうみどり。

遼子　……拗ねてんの？

笑里　え？

遼子　なんかそんな感じ。

笑里　そんなことないけど。

遼子　うまくいってないのかなーと思って。

笑里　……。

遼子　いってないならいつでも言って。空いてるんで。

笑里　……。

みどりにつづいて廣川愛が入ってくる。

愛　おめでとう！

と包装された箱を笑里に渡す。

笑里　（受け取り）ありがとう！

愛　すげえ迷ったけど、けっきょくそれにした。

箱を開ける笑里。

中からエレキング風の怪獣のソフトビニール人形が出てくる。

笑里　（見て）……。
愛　今年はそれかなと思って。
笑里　……。

棚の上に怪獣のソフビが四体置いてあり、その隣にエレキング風の怪獣を並べる。

愛　笑里と出会って五年目なんだね。
笑里　……ありがとう。
みどり　何を基準にその年の怪獣を選んでるの？
愛　やっぱ尻尾だよね。尻尾がないとダメ。尻尾のあるなかから気分で選んでる。今年はこれ。デッドキング、デレスドンときたらデレキングしかないって。
遼子　デレキング、かわいいよね。
愛　え、遼子デレキング知ってんの？
遼子　親が好きだから、
愛　なんか同世代からさ、デレキングの名前が出てくるだけで来るものがあるよね。
みどり　ぜんぜん知らない。
遼子　親も見てない？
みどり　親見なくない？　怪獣の出てくる番組とか。
遼子　うち見てた、
愛　うちは両親ともそうだったから、
笑里　うちも見てたよ、親。
みどり　え、うちがおかしいの？
愛　おかしくないおかしくない、たぶんそっちが一般的。
笑里　でも最近はそうでもないんじゃない？
遼子　同僚でもグルトラマンとか見てる人、普通にいるけど。

愛　ヲタじゃなくて？
遼子　そんな感じじゃないけどな、
笑里　そういう感じの人じゃなくても見てると思う。
みどり　……そうなんだ。
愛　私は変人扱いだけどね。
みどり　怪獣知ってるのは一般的なんだ……。
愛　前よりはそうなってるって感じじゃないの。たまに見ると面白いよ。
笑里　そうかも。
みどり　あんた見てないでしょ。
笑里　見てるよ。たまに。
みどり　見てるの見たことないんだけど。
笑里　ほんとほんと。見てるよ。
みどり　えー。
笑里　つうか日曜の朝寝てんじゃん。
みどり　えー。
笑里　ライダーとか見てるよ。たまにだから話とかわかんないけど。
みどり　えー。
遼子　（愛に）彼女、いつ来るの？
愛　ああ、仕事が終わらないからちょっと遅れるって。連絡来るから。
みどり　たのしみー。
笑里　理想の恋人らしいじゃん。
愛　ああ、うん、理想っていうか、完璧って感じ？
みどり　話してたんだ、さっき。とにかくすごい人だって。
笑里　急に姿現したりするって。
愛　なにそれ、そういうんじゃないから。たださ、たまたまい

くつか偶然が重なったっていうか。
みどり　たのしみだなあ、
愛　待たなくて良いよ。本人緊張しちゃうし。
みどり　でもパーティーはじめちゃってからだと入りにくくなっちゃわない？　全員初対面だし。
愛　たぶん大丈夫。そういうの平気な人なんで。
笑里　写真とかないの？

スマートフォンを取り出し、操作して、画像を見せる愛。

笑里　……かわいい。
みどり　（のぞいて）あ。
遼子　（のぞいて）ああ……。
愛　前の恋人、男の人だったんだけどさ、
遼子　……また？
愛　またってことないでしょ、
遼子　でも、またでしょ？
愛　相当つらい思いしたみたいだから触れないであげてくれる？
遼子　……世の中にはさ、男性でつらい思いをしたから女に走るっていう、偏見的なものがあるわけじゃない、
みどり　あるある、
遼子　でもじっさいはさ、そういう人もいるわけでさ、
みどり　いるね、
遼子　そういう感じの、そういう人が現れるわけだよね、ここに、
愛　なんか問題ある？
遼子　べつに。

愛　感じ悪いね、さっきから。
遼子　廣川頼りないから。
愛　言っとくけど、そういう感じのそういう人とはちょっと違うんで。
遼子　へえ、
愛　おまえ、本人見てから言えよ、そういうことは。
みどり　やめてよ、おめでたい日なんだから、
笑里　わたしはべつにかまわないけど。
愛　いいのいいの、前があんなだったからしゃあない、

愛のスマートフォンが鳴る。

愛　（出て）もしもし……ああ、わかった？　……そうそう……待ってる……はいはーい（と切って）いまそこまで来てるって。
みどり　なんか緊張してきた。

チャイムが鳴る。

笑里　早！

玄関へ出るみどり。

愛　彼女の前ではやめてね。
遼子　……。
愛　マジで。なんかあったら怒るから。
遼子　……。

ややあって、みどりと永井理子が入ってくる。

理子　お邪魔します。

遼子　はじめまして。

笑里　こんばんは。

理子　すみません、いきなり失礼しちゃって、

愛　いいのいいの、かまわねえから。

みどり　新田です、はじめまして。

理子　あ、永井です、よろしくお願いします。

笑里　近藤です、

理子　（会釈）

遼子　秋元です。

理子　よろしくお願いします。

みどり　座っててください、まだ準備中なんで、

理子　なにかお手伝いできることあったら、

愛　いいのいいの、座っててくれれば、

みどり　ほんとにかまいませんから。

笑里　（隣を示して）どうぞ。

理子　……はい。

笑里の隣に距離を置いて座る理子。

遼子　（手指消毒液のボトルを取って、莉子に）どうぞ。

理子　……はい。（と消毒する）

ふいに理子の携帯電話が鳴る。

取り出して見る理子。

非対応にして、すぐしまう。

笑里　いいんですか？

理子　あ、ああ、大丈夫です、問題ないんで、

笑里　……あの。

理子　はい、

笑里　どういう感じで廣川さんと出会ったんですか？

愛　いきなり？

理子　あ、あの、わたし区役所に勤めてるんですけど、

遼子　堅実ですね、

みどり　自分だって堅実じゃん、

理子　え、どんなお仕事なんですか？

遼子　都銀です。

理子　へええ……。

遼子　意外？

理子　いえ、そんなことないですけど、

笑里　え、それで？

理子　あ、はい、それで福祉課がらみで彼女と、

笑里　福祉課がらみ？

理子　はい、

笑里　具体的にどういうあれですか。

理子　（困って）ええと、それは……。

愛　だから言えないんだわ。保険会社と役所が個人情報漏らせないんで。

理子　いろいろあって出会いまして、

笑里　そこ、いちばんおもしろいとこなんじゃないの。

愛　昔だったらいちばん盛り上がってるところなんだけどさ、

言えないんだわ、これが。
笑里　このメンツでも？
愛　ダメダメ。よけいダメっしょ。
遼子　気をつけた方が良いよ、うちでも問題になったことあるし、
笑里　そんな厳しいの？
遼子　厳しい。お客さんも神経質になってるし。
笑里　言える範囲でどうなの？
理子　言える範囲、すごく狭いですね。
笑里　どれくらい？
理子　さっき言ったくらいです。
みどり　……想像するしかないね。
愛　そんなに盛り上がるようなことじゃないから。よくある感じだから。
理子　はい、
愛　特別な感じじゃないんで、
理子　はい、
笑里　……想像しとく。
理子　はい。
みどり　お待たせしましたー、各自持っていってくださーい。

それぞれにトレイを受けとる一同。

みどり　じゃあ、始めよっか。
遼子　飲み物取ってくださーい。

グラスやジョッキに飲み物を注ぐ一同。

ほとんどはアルコール飲料だが、理子だけはソフトド

リンクである。

みどりと遼子、顔で示し合わせて――。

蛍光灯を消すみどり。

遼子、「ハッピーバースデー、トゥーユー」を歌いながら、ケーキの箱を取り出す。

皆もそれに合わせて歌い出す。恐縮する笑里。

ケーキの箱を笑里に渡す遼子。

受けとる笑里。蓋を外す遼子。

……ケーキがない。

怪訝な一同。「ハッピーバースデー、トゥーユー」がフェイドアウトしていく。

中に入っていたのは人数分のカード。

遼子　引換券。選べるスイーツ。

一同　……。

遼子　また感染拡大してるし。ローソク吹き消すとかありえないから。だから引換券。

一同　……。

遼子　ほんと罹るとキツいんだから。みんなにわたしとおなじよ

うな目に遭ってほしくないんで。だから。
愛　……おまえの気持ちはよくわかった。
みどり　でもパーティーの意味は。
遼子　こうやって集まるのは否定しないけど、やれることはやっとかないとっていう立場？
笑里　わたしは納得したよ。六種類から選べるギフトカードだよ。
愛　そういう問題じゃねえから。
みどり　（なんとなく料理を示して）どうすんのこれ。
遼子　距離を置いて食べれば大丈夫。
愛　……なんかあんたのまわりだけ緊急事態宣言感あるわ。
遼子　５類に移行したってウイルスが消えたわけじゃないんで。
みどり　乾杯どうすんの。
遼子　みんななるべく距離置いて。

なんとなく散らばる一同。

遼子　三七度五分以上の熱のある方や体調不良気味の方は今日はお帰りください。いない？

顔見合わせるが、特にいない様子。

遼子　咳エチケットは必ず守ってください。あとおしゃべりは控えめに。
みどり　パーティーの意味は。
遼子　するならなるべくマスクして。マスクない人はよけいに持ってるんで言ってください。それじゃ、みどり。
みどり　（献杯して）笑里、誕生日おめでとう！
一同　（献杯して）おめでとー！

遼子、ひとりだけ後ろ向きになってドリンクをあおる。

以後、マスクの着脱や劇中での使い方については、特記ある以外俳優と演出家の任意による。

理子　（トレイを開けて）すごい。
愛　本職だから。
理子　わかります。
みどり　そうですか？
理子　（トレイのなかを感心して見て）見た目がもうちがいます。
みどり　ありがとうございます。
愛　見た目って、あんた味も褒めなよ。
理子　見た目は大事です。
みどり　料理はね、大事。見た目が悪くて美味しいものなんてほとんどないから。
愛　ビビンバとかタコライスとか亀戸焼きそばとか。
遼子　あれはああいうもんじゃない。
愛　ああいうもんて？
みどり　なんていうか、思想がちがうっていうか。
愛　思想ねえ……（食べて）美味しい。
理子　（食べて）美味しいですね。
みどり　（笑顔で一礼）
愛　いくつだっけ。
笑里　二十五。
愛　笑里も二十五かあ。
笑里　一瞬だよ、一瞬。（理子に）おいくつですか？
理子　二十九です。

みどり　え、廣川の方が下？
愛　そうなんだよ、つうかトモちゃん来ないの？
みどり　仕事。
愛　そうなんだー、
遼子　廣川の誕生日にはみんなそろうと良いね。
笑里　いつだっけ。
愛　暮れ。つうかいいかげん覚えて。
笑里　自分のも忘れっからなー。
みどり　わたしのも覚えてないよ。
愛　嘘。
みどり　こないだ忘れてて、さすがに怒った。
笑里　人間なんてさ、その人がそこにいること自体が素晴らしいのであってさ、誕生日とかそういうことはどうでもいいんだよ。実は。
愛　この集まり全否定すんなよ。
みどり　パーティーの意味は。
笑里　感謝はしてますよ。ほんとに。
遼子　わたしは別れたけどね、誕生日忘れてた人と。
笑里　それほどのこと？
遼子　わたしにとっては。あんたもみどりに感謝しなよ。
みどり　もういいんだよ。こういう子だってわかってつきあってんだから。（プレゼントを取り出し）はい。
笑里　（受け取り）ありがとう。開けて良い？
みどり　後にしてよ、照れくさいから。
愛　いまさらそんな感じ？
みどり　慣れない。好きな人以外なら平気なんだけど、
遼子　（プレゼントを出して）はい。
笑里　（受け取り）ありがとう。

開けると中身はアマゾンのギフトカードである。

みどり　……ギフトカード以外の選択肢ないの？

遼子　なんだかんだでこれがいちばんうれしくない？

笑里　ありがたくいただきます。

愛　え、プレゼントタイム？　ごめん、いきなり渡しちゃって、わたし空気読めてなかった？

遼子　それなら五年前に気づけよ。

愛　まずは渡さないとって思っちゃうんだよねえ。

理子　……あの。

と自分のプレゼントを取り出す。

笑里　あ、わたしの？

理子　はい。初めてお目にかかるのに、どうしようかなと思ったんですけど、

笑里　いえ、あの、ありがたく頂戴します。

理子　気に入っていただけると良いんですけど。

受けとる笑里。

開ける。

中から出てきたのは高級品のクレヨンである。

笑里　（驚いて）え、これ、すごくほしかったんだけど。

理子　よかったです。

笑里　なんでわかったんですか？
みどり　（見て、愛に）え、彼女が絵描いてるって言ったの？
愛　いんや。
みどり　それでこれですか？
理子　なんとなく……かわいかったんで。
笑里　……はあ。
みどり　やっぱそういう人なんだね。
理子　？
愛　人の気持ちがわかるっていう、あれ、
理子　ああ……たまに言われるんですけど、ほんと偶然なんで、
みどり　すごいですね。
理子　ほんとに偶然ですから。
みどり　絵、上手なんですよ。
理子　そんな感じします。
笑里　趣味以下ですよ。
みどり　そういう仕事してたこともあって。
理子　そうなんですか。
笑里　ミニコミだからたいしたもんじゃないですよ。
遼子　卑下しない。失礼。
笑里　たかがバイトです。
みどり　最近こうなの。
笑里　むかしっからです。
遼子　かもね。
みどり　そうなの？
遼子　わりとネガティヴ。
みどり　……そうなんだ。

理子の携帯がふたたび鳴る。

取り出し、見ると、非対応にして、しまう理子。

みどり　出ないで良いんですか？

理子　大丈夫です。

笑里　遠慮してくれなくても、

理子　たいしたアレじゃないんで。

笑里　ならいいですけど。

理子　あの……何年おつきあいされてるんですか？

みどり　三年です。いちばん長くつづいてるかなあ。

愛　あれやんないの、パートナーシップ制度。

みどり　考えなくもないけど、まだ話し合ってはない。

笑里　でもあれ、やったところでたいしたことなくない？

みどり　やらないよりはいいんじゃない？

笑里　こないだ二丁目でバカにされちゃった、ちょっと考えてるって言ったら。

遼子　そういう人もいる。

みどり　そうじゃない人もいる。

愛　（遼子を示して）カミングアウトしてんの。

理子　そうなんですか。

遼子　当行はダイバーシティーへの取り組みに熱心でして。

みどり　そういうこと、考えてますか？

理子　いえ……いまのところは。

遼子　良いことはね、男が寄ってこなくなること。

みどり　それはねー、

笑里　男問題は切実ですからね、

愛　この世の悩みの八割は解決だね、

遼子　口説かれなくなるのはほんと良い。それでも言い寄ってく

る奴はいるけど。
みどり　いるんだ。
遼子　いる。わかってんのに「いいじゃん」て。
愛　わかってねえじゃん。
遼子　わかってねえんだよ。よくねえよって。
みどり　男の人ってさ、言い寄られて断るのもつらいってことがわかってないんだよ。
笑里　わかってない。絶対にわかってない。
遼子　なんならうれしいって思ってるから。
笑里　こればっかりは女じゃないとわかんないんじゃないですかねえ、
みどり　じゃあ悪くなったことは？
遼子　謎の上から目線。
理子以外の一同　ああー……。
遼子　「大丈夫？」「なにかできることある？」「困ったことあったら言ってね」「そういう人たちを助けなくちゃいけないって、わたしいつも思ってるから」……とか。
愛　マイノリティを可哀想な人たちだっていう思い込みは勘弁してほしいよね、
遼子　後輩のゲイの子といつもため息ついてる。
みどり　むずかしいよね。どうしても。
遼子　みどりは恵まれてるよ。
みどり　うん……そうだね。
愛　（理子に）職場に理解のある人が多いの。
みどり　店長がそういうことに敏い人なんですよ。
愛　わたしはどうしよっかなー。
遼子　おたくは黙ってた方がいいかもね。
みどり　え、そんなにマズいの？

愛　ていうか、無理解な上司が多いんで、
遼子　けっこう評判になってて。
愛　関連会社で遼子んとこみたいに頑張ってるところがあるんだけど、そことの懇親会で「きみたちレズとホモなら結婚しちゃえばいいんじゃないの、偽装、偽装、ちょうどいいじゃないの」って偉い人が言っちゃったんだわ。
遼子　最低でしょ。
みどり　それはアウトだわ。
愛　そういう人が上にいる会社でさ、なかなかそういう気にはさ、
みどり　やめた方がいいかも。
愛　そうなんだよねえ、
遼子　考えた方が良い。
みどり　なんでそうなっちゃうんだろうなあ。
愛　そんなにむずかしいことじゃないと思うんだけどね。
遼子　わかんないなら無理に関わらなきゃいいと思うんだけどさ、
みどり　職場だったら関わらざるを得なくない？
遼子　やることやって給料もらえりゃそれでいいのに。（ふいに理子に）そうじゃありません？
理子　あ……はい。
みどり　区役所ってどんな感じなんですか？
理子　自治体にもよると思いますけど、うちは基本は由とされてます。でもいまのところカミングアウトしてる人はいないですね。
遼子　職場の空気ってどうなんですか？
理子　んー……なんとも言えないですね。
遼子　それは悪いってこと？
理子　いえ……どちらとも言えない感じです。

笑里　どっちに転ぶかわかんないってことでしょ。
理子　わたし、福祉の仕事でさんざん見てきたんです、人がころっと変わるのを……昨日までやさしかった人が急に冷たくなったり、冷たい人が急に情熱的になったり……だからわからないです。わたしに彼女がいるって知ったとき、まわりがどうなるのか。
笑里　わかる、そういうの。
遼子　怖いですか。
理子　……はい。
愛　そらそうっしょ。
遼子　飛ぶ前に迷ってたら、いつまで経っても飛べないわけでさ、
みどり　住んでみたら、
愛　うーん……。
みどり　住んでみればわかるよ。
愛　……そうだね。
みどり　いっしょに住むことで見えてくることもあると思う。
理子　……。
愛　……あの、そういうことあんまり突っ込まないでもらえると助かる。
みどり　（主に理子に）あ、ごめんなさい、なんか踏み込んだこと言っちゃって。
理子　いえ、そういうわけじゃ……。
愛　まあ、いろいろあんのよ。
みどり　……すみません、
理子　いえ、ほんとに気にしないでください、
遼子　いろいろって？
愛　いろいろ。
理子　……。

遼子　同棲、いやなんですか？
理子　いえ……そんなことはないんですけど。
遼子　けど、どうなんですか？
理子　……整理がつかないだけです。自分のなかで。
遼子　……家族以外の誰かと暮らしたことあります？
理子　え？
遼子　恋人とか。
みどり　やめなよ、
理子　いいんです、
遼子　男性？
理子　……はい、男性と。
遼子　長かったんですか？
理子　三年くらい……三月まで一緒に住んでました。
遼子　つい最近じゃん。
愛　したくなかったらしなくて良いからね、そういう話。
遼子　感じ悪いな。
愛　どっちが。
遼子　女とつきあうの、初めてなんですよね？
理子　……はい。
遼子　わたし、女としかつきあったことないんですよ。
理子　……。
遼子　前の恋人、女はわたしが初めてだったんですね、それでけっきょくどうなったかって言うと、もともとつきあってた男の人のところに戻ったんですよ。さよならもなかったですよ。いまは結婚して子供もいるんですけど。
理子　……。
遼子　だからどうしてもね、なんていうか、その、不信感で見ちゃうんですよね、あなたみたいな人。

愛　やめてくれっつったよね？
遼子　（やめず）廣川、そういう人ばっか好きになるんですよね。
それで何度も裏切られて……。
愛　（さえぎり）やめろ。
遼子　……覚悟を聞いてみたいんだけど、この人の。
愛　女がさ、男とつきあうのに覚悟なんか聞かれないじゃん。
なんで相手が女だと聞かれなきゃなんないの？
遼子　わたしを振った彼女も言ってたんですよね。整理がつかないって。
愛　（理子を促し）この人、おまえを裏切ったあの子とはちがう人なんで。帰ろ。
みどり　廣川、
愛　帰る。こういうことしちゃいけないってわかってるはずの人間がこれじゃあさ、
理子　いいんです、
愛　（笑里とみどりに）ごめんね、今度穴埋めるから、おまえ
（遼子）は来んなよ、
理子　いましょう。
愛　こんなとこに置いとけねえから、（みどりと笑里に）すまんこんなとことか言って、でもいまここはディストピアだから、こいつのせいで、
理子　わたし、せっかくだからお話ししたい。いましょう。
愛　帰る！
理子　いましょう。あんまりこういう話、したことなかったじゃない。せっかくだから、いましょう。
愛　……。
理子　いま帰ったら逃げるみたいでいや。わたしは残りたい。
愛　……。

ふてくされたように腰を下ろす愛。

理子　（笑里に）すみません、せっかくのパーティーなのに。

笑里　いやいいです、もう誕生日とかなかったことにしてくれていいんで。

理子　……女性とつきあうのは初めてですけど、好きになったのは初めてじゃありません。彼女と出会って、それに気づきました。実はずっとそうだったんだって、自分でもわかりました。

みどり　そういう人、珍しくないですよ。わたしもそうだし。男の人とつきあうもんだと思ってたからそうしてたんだけど、

理子　わたしもです。

みどり　わたし、決めてないんです。女じゃないとダメだとか、男じゃないとダメだとか、決めることに違和感があるんです。だからやめたの。この人が好き、それは確かなことだから、それで良いって。彼女（笑里）は女性のことしか好きになったことなくて、女性としかつきあったことないんです。

遼子　わたしも。

愛　わたしも。

みどり　まあそれぞれですよ。

理子　こどもの頃から、好きになるのは女の子だったんです。でも恋愛感情だと思ったことなくて、

遼子　わたしはもうわかってたからなあ、中学の頃には。

みどり　中学生でアイデンティティが出来上がってるなんてさ、大人なんだと思うわ。わたしは友だちと男の子の話とかワイワイしてたよ。

遼子　道は見えてた。

笑里　社会性のある人ほど迷うんじゃないの。
みどり　あってもなくても迷う人は迷うんだよ。
遼子　迷うことは否定しないけどさ、人巻きこんでほしくないんだよね。ひとりで迷えよって。
理子　……わたしは迷いはないです。
遼子　じゃあなんで廣川と同棲すんのためらってんですか？
愛　おまえには関係ねえから。
理子　迷ってるっていうか、
愛　言わないで良いから、
理子　わたし、
遼子　なに？
愛　黙ってなよ、
理子　べつに隠すことじゃないと思うけど。
愛　なんつうか、言わされてる感じがすごくイヤなのね。圧を感じるわけじゃん、主にこいつ（遼子）の。それにさ、そういうことって、こういう状況で言うことじゃないと思うし。
理子　でも、後ろめたくて黙ってるみたいに思われるのもいや。
愛　わたしたちのあいだで解決してないことをここで披露してもしょうがないじゃん、
理子　……子供がいるんです。

一同、しばし黙って、

愛　……今日じゃないと思うんだけどなあ、話すにしてもさあ……。
みどり　あー……それは……その……
理子　三ヶ月です。
みどり　……ああ。

遼子　それは前の……？
理子　はい。別れてから気づきました。
みどり　その方には言ったんですか？
理子　……まだ。
遼子　なに、いっしょに育てようっての？
愛　あたりまえじゃない、好きな人なんだから、
遼子　（ため息ついて）これだから廣川は……
愛　なんだよ、
遼子　甘いわ。なにもかもが。
愛　甘くてこんなこと考えるかよ。
遼子　日本はまだまだ遅れてるし、女二人じゃ不利だってのもわかってるよね？
愛　わかってるよ、
遼子　どうすんの、マジで？　シングルマザーってことですよね？　親になんて言うんだとかさ、難問山積みなんだけど、
愛　そんなのひとつひとつやってくしかないじゃん、
みどり　産むおつもりなんですよね？
理子　……はい。
みどり　だったら本人の意志が第一じゃない？
遼子　本人だけじゃなくて生まれてくる子どもの人生もかかってんだよ、
みどり　それはいま考えてもわからないことじゃない、
遼子　三ヶ月なら――
みどり　（怒ってさえぎり）言い過ぎ。
遼子　……。
みどり　廣川と一緒に住みたくないんですか？
理子　そういうわけじゃないです、
愛　遠慮してんの。

理子　そうじゃなくて……
愛　遠慮じゃん。
理子　ひとりで育てたいんです。
愛　……。
理子　わたしひとりでやってみたいんです。
愛　ひとりじゃ無理だよ。
理子　わたしの母もひとりでわたしを育ててくれたんです。やれないことはないと思います。
遼子　……子供産んだ友だち、見てますよね？
理子　はい、
遼子　たいへんなの、わかってますよね？
理子　はい。
遼子　……さっきは無神経なこと言ってごめんなさい。でもね、いまの日本、あなたのお母さんがあなたを育てた時代とは違うんですよ。銀行勤めてるでしょう、窓口から上がってくるお札がね、どんどん汚くなってくんですよ。消費税アップの前なんか、もうたいへんでしたよ。ＡＴＭが認識しないような傷んだお札がたくさん上がってくるんです。そういうお札、どんどん増えてるんですよ。なんでそんなに傷んでるのかはわかりません。でもね、それ見てるとね、ほんとに思うんですよ、この国ダメになってるんだなって。ほんとに貧しくなってるんだなって。株価が上がったってどうにもならないんです。穴の開いたバケツに水入れてるようなもんなんだから。でもそんなことにはこれっぽっちも気づかないで、同性婚を認めると少子化が加速するとか言ってる連中が上にいる国なんですよ。下がどれだけ不安だろうが、上に都合の良い法案だったらすんなり通っちゃうような国なんですよ。そう思うとね、子どもつくる気になんてならないですよ。暗い未来

しかないのに、こんな世の中に、子どもなんて送り出せないですよ。

理子　……わかります。福祉事務所に一日いれば、誰だってわかると思います。世の中ひどくなってます。仰るとおりです。信じられないくらい貧しい方とか、想像できないくらいひどい生活をしてる方とか、たくさんいらっしゃいます。それ見てると怖いです。子ども以前に、わたし自身が不安です。

遼子　だからわたしは子どもはつくりません。

理子　でも、どんなにひどい家庭の子どもでも、笑ってたり遊んでたりするんですよ。それ見てると、あの子たちはもう自分の人生を生きてるんだなって思います。堕ろそうと思ったこともあります。けど決められないですよ。生まれる前にその子が不幸だって決めつけるのはこちらの傲慢じゃないですか。

遼子　……。

理子　だから産みます。あなたを産んで良かったって言えるように努力します。

遼子　それって「努力」することなんですかね。

愛　支えるよ。

理子　……。

愛　支えさせてよ、恋人なんだから当然でしょ。

理子　……当然なのかな。

愛　一緒に住んでたらさ、なにかと助けられることもあるわけじゃん、

理子　一緒に住むことの理由が、子供になってるのがちょっといやだなと思って。

愛　……。

理子　こないだまでは人と暮らせるかどうかわかんないって言っ

てたのに、子どもができたからって急にそういうこと言い出すの、なんか引っかかる。

愛　大ごとだもん、わたしだってなんとかしようと思うよ。

理子　子供のいる相手とつきあうって発想になれない？

愛　なんかそれも寂しいじゃん。すごい突き放されてる感じするのね。

理子　向いてないような気がするって言ってたじゃない。人と一緒に暮らせるかどうかわからないって言ってたじゃない。

愛　……。

理子　わたし、あの人と三年一緒にいたからわかる。一緒に住むのと、相手を大事にするのってちがうことなの。

遼子　わかるわー。

愛　（みどりたちに）なんかないの？

みどり　え？

愛　同棲の良いとこっていうか、いっしょに住むとこんな良いことがあるってこと、なんかないの？

笑里　家賃と光熱費は折半とか、

愛　そういうわかりきったことじゃなくてさ、なんかないの？好きな人の人生のビッグイベントに関わってないの、すごくイヤなんだけど。

理子　（苦笑して）良いことも悪いこともあるよ。でも、わたしたちはまだ早いと思う。わたしを大事にしたいと思ってくれてるのはすごくうれしいけど、そのために自分を犠牲にしないでほしい。そのままでいてほしい。

愛　……。

遼子　あんた（愛）よりしっかりしてるのはわかった。

理子　そんなことないです。

みどり　廣川のどこが良いんですか？

理子　なんていうか……かわいいじゃないですか。
一同　（納得したようなしないような感じで）ああー……。
愛　え、なに？　なんなの？　なんなのこの空気？
笑里　（ふいに）でもなんて言うんですかね、そんなにしっかりしなくちゃいけないんですかね。
理子　え？
笑里　難しく考えないで、甘えりゃいいのにって思いますけど。わたしなんて今バイトないから、この人のヒモですよ。この人いなかったら生きてらんないです。その程度の人間なんです。だからあなたみたいな人見てると、すげえなって思う反面、なんでそんなにちゃんとしようと思うんだろうって不思議なんですよ。それに傷つく。あなたみたいな人がいると傷つく。おまえはダメだって言われてるみたいで傷つく。
みどり　……黙んなよ。
理子　……ごめんなさいって言えば良いんですか？
笑里　……わかんないですけど。
愛　……わたしは彼女のこういうところから何もかもが好きなんで、なんつうか、別にいいじゃん。こういう人がいても、わたしみたいな人がいても、笑里みたいな人がいたっていいし、それでいいじゃん、この人がいるだけで傷つくってさ、それ彼女の問題じゃなくてあんたの問題だから。押しつけんなよ。あんたの問題で彼女を傷つけんなよ。
笑里　……そんな人間なんですよね。すみません。
遼子　好きにしたら良いんじゃないですか。産もうが、一緒に住もうが、ひとりで生きようが、あなたのやりたいようにやってください。基本はみんな好きにやりゃ良いって思ってます。だから好きにしてください。
理子　……。

遼子　わたしも好きにやるから、あなたも好きにしてください。
次会ったときに廣川の愚痴でも育児の愚痴でも聞かせてください。仕事の愚痴でも同僚の悪口でも良いです。この先そういう時間があたりまえになると良いですね。そうやって年を重ねて行けたら良いですね。おたがい敬語の関係じゃなくなったら良いですね。
愛　……おまえ、素直に仲良くなろうって言えないの？
遼子　ま、そういうことです。
理子　……はい。

理子の携帯が鳴る。

見て、非対応にして、しまう理子。

愛　……例の？
理子　（うなずく）
みどり　なに？
愛　前の恋人。
遼子　別れたんでしょ？
理子　はい。でもまだしつこくて……。
愛　ヨリもどしたがってんの。
遼子　電話、ここ来て三回目ですよね？　それストーカーですよ。
てかそれが父親？
理子　子どもに罪はありませんから、
遼子　認知とかどうするつもりなんですか？
理子　正直、迷ってます。彼とは無関係に育てたいんですけど。
遼子　まあ、そうだよね。
みどり　そういうのって昔ほどじゃなくない？

遼子　でも、なんだかんだで不利。
理子　気にする人はまだいるので……。
愛　ちょっとさ、話させてもらって良い？
理子　え？
愛　その人と話させてくんない？　いまはわたしとつきあってるって言わせてもらっていいかな？
理子　え、あ、どうして？
愛　恋人なら普通やるでしょ、それくらい。
理子　……でもわたしの問題だから。
愛　ひとりで抱えすぎないでほしいんだわ。ねえ、話させてよ、ガツンと言ってやるから。
理子　……気持ちはうれしいけど、やっぱりこれはわたしが……
愛　じゃあ、ここで電話して。電話して、子どものこと言ってみて。反応見て決めようよ、認知させるかさせないか。
理子　……。
みどり　廣川、それ暴力じゃない？　初めて会ったばっかの人たちの前ですることじゃないと思うけど。
愛　ここまで自分たちのこと晒してんのに、いまさらそんなこと言わないでよ。わたしたち、あんたたちの前で裸になってんだからさ、最後まで見ててほしい。いろいろ言うんだったらさ、とことん関わってほしい。
みどり　そうは言っても引き受けるのは彼女だからね。
理子　……彼と話してるときのわたしを見られたくないってのはある。
愛　どうして？
理子　なんていうのかな……自分が好きな自分じゃないから。
愛　わたしはどんなときのあなたも好き。
理子　……そういうことじゃなくて。

理子、しばし迷って、

理子　……わかりました、電話します。（と携帯を取り出す）

みどり　やめてください。廣川の言ってること、わからないでもないけど、やめた方が良いです。

理子　してみます。しようと思えたんです。いつかはしなきゃいけないことですから……いましてみます。

電話をかける理子。

コールが聞こえる。

何度か鳴らすが、出ない。

切る理子。

理子　……こっちからかけると出ないんですよね。

愛　どういうこと？

理子　……。

携帯が鳴る。

愛　スピーカーにして。

理子　（出て、スピーカー状態にして）……もしもし？

男性の声　なんで出ないの？

理子　え？

男性の声　なんで出ないの？　今日だけで五回くらいかけてんだ

けど。
理子　仕事だったり、人と会ったりしてたから……
男性の声　でも出ようと思えば出られるよね？　そういうとこだよ、おれみたいにさ、甘えられる人間あとに回すのよくないよ。ちゃんとした人はさ、大事な人はしっかり大事にしたうえで甘えるもんだよ。しっかりしてくれよ、お願いだから。
理子　あのね、
男性の声　謝らないの？　まずは「ごめんなさい」じゃないの、ここは？
理子　聞いてほしいことがあるんだけど。
男性の声　「ごめんなさい」って言ってくれる？
理子　……ごめんなさい。
男性の声　で、なに？　おれ忙しいんだけど。
理子　聞いてくれる？
男性の声　妊娠のこと？　そろそろ三ヶ月じゃないの。
理子　……なんで知ってるの？
男性の声　あんとき使ったコンドーム、古かったんだわ。外すときに破れてんのに気づいたんだけどさ、ま、べつに良いかなって。どうせ結婚すんだからかまわないだろ？
理子　……。
男性の声　しようよ、結婚。おれ、やっぱおまえのことが好きだからさ。おれと幸せになろうよ。
理子　……しないよ。
男性の声　そうやってさ、意地張るのやめようよ。つうかどうすんだよ、子ども。え、なに、堕ろすの？　おれ、おまえが子どもいらないんってんならそれでもかまわないけど。
理子　そういうこともしない。
男性の声　じゃあどうすんの？

理子　産むけど、結婚はしない。
男性の声　なに、どういうこと？　男がいるの？
理子　いないよ。
男性の声　じゃあなに？　つうか男じゃないの？　おまえおれの子ども別の男と育てるつもり？　ありえないんだけど。
理子　とにかく産むから。もう関わらないでほしいんだ。
男性の声　（仰々しくため息ついて）それ、おれの子だよね？　なのに関わるなってどういうこと？　子どもわざわざ不幸にすんの？　おまえのわがままで片親にすんの？　どんだけ勝手なんだよ。
理子　あなたのこと、もう好きじゃないし、尊敬もしてないのね。この子をそういう人の子どもとして育てられないんだ。
男性の声　尊敬できない母親はおまえだろ？　おまえのわがままにおれの子ども巻き込まないでくれる？
理子　子どもって親を選べないんだよ。それで不幸になる子もたくさんいるの。だったらわたしがこの子の親を選ぶ。気まぐれじゃないよ。責任持ってわたしがこの子の親になる。あなたを親にはしない。だから関わらないで。
男性の声　なんでそんなに人の気持ちがわかんないの？　わかろうとしないの？　公務員の給料だけで子どもなんか育てられるわけないじゃん。けっきょく男だろ？　浮気じゃないの？　きれいごとでごまかさないでほしいんだけど。
愛　（横から）あの。
男性の声　あ？
愛　（理子が止めようとするのを制止して）あの……もうちょっと彼女の話を聞いてくれてもいいんじゃないですか？
男性の声　つうか誰？
愛　理子さんの恋人です。

男性の声　は？
愛　恋人です。おつきあいしてる者です。
男性の声　は？
愛　つきあってるんです、わたしたち。だから彼女のこと、もうあきらめてほしいんです。
男性の声　あなた女性ですよね？
愛　はい。
男性の声　ああ……それはつまりアレですか、女性同士でつきあってるってことですか？
愛　そうですね。
男性の声　え、マジで？　ほんとですか？　……そうなんだ……へええ……あの、ちょっと彼女と代わってもらえますか？
愛　ちゃんと話聞いてもらえるんなら、
男性の声　はい、大丈夫です。お願いします。

横に退く愛。

理子　……もしもし？
男性の声　（笑いながら）なにおまえ女とつきあってんの？　マジで？　超ウケるんだけど。
理子　……なにが可笑しいの？
男性の声　いやなんかさ、おれ、おまえに男ができたんだと思ってたのね？　それで嫉妬で悶々としたりしてさ、つらかったわけ。毎日地獄だったわけ。それがいまぜんぶ飛んでったわ。きれいさっぱり消えてったわ……そうか、女か……いやー、ホッとした。
理子　……。
男性の声　なんか安心しちゃった。男じゃなくてよかったよ。ご

めんね。おれ、男ができたとばっかり思ってたからさ、ちょっと荒んでたのね、おれほんとおまえのこと好きだからさ、ほんとイヤだったのね、ずっと戻ってきてほしくてさ、また仲良くやりたくってさ、それで……（涙ぐみ）ほんとよかった、ほんとよかったよ……女か、そうか……ほんと良かった……代わってくれる、彼女さんに？　ちょっと挨拶したいから、

愛　（怒って入り）あの、

男性の声　（まったく気づいておらず）ああ、あの、すみません、あいつのことよろしくお願いします、なんかぜんぜん人の気持ちとかわかんないし、空気も読めない奴ですけど、ほんとお願いします、ぼく、サポートとかしますんで、子どものことも、ああ、あと認知とかもちゃんと！　男としてきっちり責任は取りますんで！

愛　……あの。会えません？

男性の声　え？

愛　会えませんか、いまから。ちょっとお話ししたいことがあるんですけど。

男性の声　え、あ、いいですよ、いまどこすか？

愛　西荻です。

男性の声　じゃあ新宿でどうすか？　あいつも一緒ですよね？　じゃあ東口の駅前で。そうすか、すげえたのしみだなあ、あの、ぼく、ゲイの友達いるんですよ、だからそっちの趣味って理解あるつもりなんですよね、でもレズの人ってほんと初めてなんで、超たのしみです。

愛　……よろしくお願いします。

男性の声　はい、それじゃ！　今後ともよろしくお願いします！

（と切る）

愛　……殺す。
遼子　殺せ。
みどり　止めようよ、そこは。

出かける準備を始めている愛。

理子　直接会うなんて大事なこと、勝手に決めるのやめて。
愛　止めないでよ。わたしがあなたのために何かしようとしてるのに止めないでよ。それすごくイヤ。止めないでほしい、好きなようにさせてほしい、
理子　わたしのせいで人が傷つくのを見るのはイヤなの。
愛　もっと傷つきたいんだ、あなたのことで。それ、悪いことかな？　止められるようなことかな？　行けば傷つくのはわかってるよ、でもわたしはそうしたいの、あんな男があなたの人生に関わってるのが許せないから！

出かけていこうとする愛。

みどり　廣川、よしなよ。誰も幸せになんないよ。
愛　おまえが決めることじゃねえから。
理子　やめて。
愛　……。
理子　あの人と関わらないでください。お願い。
愛　……。

黙って出て行く愛。

遼子　つうかなんであんなのとつきあった？

理子　……最初はああじゃなかったんです。
遼子　つきあってみなきゃ本性わかんないってのはあるけどさー、
理子　本性っていうか……わたしがあんな風にしちゃったのかもしれないし。
遼子　あなた良い人過ぎるんですよ。
理子　人のことって、そう簡単に裁けないですよ。いまはあんなだけど、むかしはたくさん良いこともあったし、たのしかったこともあったんです。
みどり　ちがいます。あれはほんとにひどい人。あなたが受け入れられてないだけです。
理子　……。
みどり　これ、あなただけの問題じゃないですよ。彼、わたしたちのこと全員傷つけましたからね。ほんとに愚かで、ほんとに罪深い人だと思う。
理子　……。
みどり　あなたが彼に言ったこと、とても立派だと思います。だから、あんな人を気遣うくらいなら、あなたがほんとに大切だと思う人をいままで以上に大切にしてください。彼の分、廣川に遣ってあげてください。
理子　……。
みどり　廣川が好きなら、廣川とつきあうって決めたんなら、あなたが責任持って彼を人生から消し去ってきてください。わたしたちからのお願い。
理子　……。

出かける支度をする理子。

みどり　もっと廣川に甘えてください。こうして出会ったんだか

ら、わたしたちにも甘えてください。甘えられるの、イヤじゃないんで。あなたもそうでしょ？

理子　……。

理子、会釈して退場する。

みどり　……これでさ、廣川が来てほしいってタイミングで現れるんだよ。

笑里　……すごい。

遼子　すごいよね、相性としか言いようがないわ。

みどり　てか行かないの？

遼子　え、なんで？

みどり　殺せっつったじゃん、止めないと。

遼子　まさかほんとに殺さないでしょ、

みどり　あの勢いならわかんないよ、ほんとにやったら殺人教唆だからね、

遼子　あんただっていま「人生から消し去れ」って言ったじゃない、

みどり　それは比喩でしょ。あんたのはモロだからさ、止めないと。

遼子　えー。

みどり　……。

遼子　……要は見張れってことね。

みどり　そういうこと。

出かける支度をする遼子。

遼子　ごめんね、片づけらんなくて。

みどり　また集まろうよ。
遼子　そうだね。（スマホを掲げ）状況、逐一報告するんで。
みどり　よろしく。
遼子　それじゃ。
みどり　いいかげん、前の人忘れてね。
遼子　……。

退場する遼子。

残ったみどりと笑里。

みどり　（ふいに歌い）ハッピーバースデー、トゥーユー、
笑里　（さえぎり）もういいよ。
みどり　……なんか疲れたね。（と座る）
笑里　プレゼント、開けて良い？
みどり　うん。開けてビックリだわ。

包装を解くと、理子が持ってきたのとまったくおなじクレヨンがあらわれる。

笑里　あ。
みどり　すごくない、あの人？
笑里　すごい。ガチの恋人とおなじチョイスはすごい。
みどり　やっぱちょっと特別な人なんだと思うわ。
笑里　どうしよう、どっちから使えば良いかな。
みどり　後でも先でも好きに使って。
笑里　そうする。
みどり　つらかっただろうなあ、あんなのとつきあって。

笑里　クズオブクズだったね。
みどり　ひさびさだわ、あんなの。怒る前に笑っちゃった。
笑里　ここまで察しの良い人がああいう選択をするって、どういうことなんだろうね。
みどり　みんな人のこと言えないよ。そういう失敗、ぜったいあるもん。
笑里　よく三年も暮らせたよね。
みどり　自分のことより人のことを大事にしちゃう人だからじゃないの。
笑里　廣川さんとうまくいくのかなあ、
みどり　いってほしい。
笑里　どうかなあ、

怪獣の人形を手に取って、

笑里　相手の好きなものより、自分の好きなものを贈ってくるような人だよ。いままでだって全部そうでしょ。彼女のこともそう、わたしが好き、ただそれだけ。
みどり　あの人なら廣川受けとめられるんじゃないの。
笑里　どうかなあ。
みどり　あんただってそう言ってるけどさ、捨てずに取ってあるじゃん。飾ってあるじゃん。
笑里　……。
みどり　相手に受けとめる気があるんなら、気持ちって一方的じゃないんだと思うな。
笑里　……。

立ち上がり、部屋の片づけをはじめるみどり。

なにもせずにいる笑里。

やがて、ふいに、唐突に、だが実は唐突でなく、

みどり　（顔を向けずに）別れないよ。

笑里　……。

みどり　別れないからね。

笑里　……。

みどり　だからもうやめて。わたしが好きなあなたのこと、あなたにも好きになってほしい。

笑里　……。

片づけつづけるみどり。

笑里、なんとなく窓の外に目を向ける。

しばらく見ている。

やがて、なにを思うか、窓を閉める。

（了）